

シラバス参照

科目名	協創力体験演習Ⅱ
配当年次	2年次
開講期間	春学期
単位数	1
担当教員	上田 秀雄(ウエダ ヒデオ)
期間・曜日・時限・教室	春学期 金曜日 3時限 その他

※	本科目は、大学および学部もしくは学科のディプロマポリシーの1と2の達成に必要な科目です。
授業の目的・目標	①授業の概要:この授業は、身近な問題をテーマとして考えることを通じて、学問による人間形成の基礎となる責任感、状況認識力、課題発見力を身につけ、協創力の要素である多様な人々と協力する力を高めるための科目です。 ②授業の目的:与えられた課題に対して、メンバーが協力するチーム活動として”協創”を体験し、相互理解・相互尊重の態度や課題解決の能力を身につけることを目的としています。 ③修得できる力:チームとしてメンバーが協力して取り組むことにより、倫理観、責任感、状況認識力、問題発見力、交流力、相互理解・相互尊重の態度など、協創に必要な能力が身につきます。(汎用的技能、態度・志向性) ④授業の到達目標:多様な学生と協力して、与えられた課題に対する解決策を提案するためのプロダクトを成果物として作り上げるプロセスを体験することで、協力することの成果を実感できることを目標とします。 ⑤実務経験と授業内容との関連:なし ⑥地域に係る科目について:なし
準備学習等の指示	協創力体験演習Ⅰで学んだ「心理的安全な空間」を作る、「多様な考え方」を受け入れる、「対話のスキル」を活用するといった協創の土台となる事柄を確認するようにしてください。 予習・復習などの自主学習時間:教室で取り組む時間以外に、28時間程度の自主学習時間が必要です。各自で協創の土台となる事柄を確認するとともに、自分たちが担当するテーマに関係する内容についてチームメンバーで図書館やグループ学習スペースなどで調べものや議論をすること、オンラインでの情報交換や各自で行う調べものなど、インターネットの環境も上手に利用して、指示されたプロダクトの作成に必要な活動に自主学習時間を利用してください。
講義スケジュール	■第1回 【テーマ】協創のための基本事項 【目的】心理的安全な空間を担保し、多様なチームメンバーで対話できる環境を整える。 【到達目標】本授業を通じて担当する課題(テーマ)について、チームでの対話を通じて議論できる。 【準備学習】 【特記事項】協創力に対する学長の思いや2年生への期待についての講話の後、チームとして活動しやすくするためのアクティビティを行います。複数のテーマ案の中から、チームで取り組みたいものを対話を通じて決めていきます。 ■第2回 【テーマ】問題解決のための情報の収集・整理 【目的】担当するテーマに対する問題解決のために必要な情報の収集・整理の方法を理解する。 【到達目標】チームで担当することが決まったテーマについて、問題解決の方向性、情報の収集・整理の概略を決める。 【準備学習】 【特記事項】問題解決の事例の紹介および情報の整理の仕方(ロジカルシンキング)などに基づいて、自分たちが担当するテーマに当てはめる ■第3回 【テーマ】問題解決に向けた方針・目標の設定 【目的】問題解決のためのチームの方針・目標を明確化する。 【到達目標】問題解決に向けたチームの目標を明確化したうえで、協創を意識して提案内容の概略をまとめる。 【準備学習】 【特記事項】先行事例や成功事例を書籍、webサイト、学内関係部署の訪問などを通じて調査し、自分たちのテーマに対して応用できることなどを見出し、チームで考えた方針・目標に即して内容をまとめます。チームメンバー1人ひとりが協創を意識した役割を担います。 ■第4回 【テーマ】発表プロダクトの原案作成 【目的】チームでまとめた概略に基づき、授業内発表会のためのプロダクトを作成する。 【到達目標】チームメンバー1人ひとりが協創を意識し、自分たちの提案内容を他者に発表するためのプロダクトを作成する。 【準備学習】 【特記事項】第3回の授業内容を継続しながら、PCなどを使い発表用プロダクトを作成していきます。第5回の授業に対応できるよう、必要に応じて時間割外の時間を使ってチームでコミュニケーションを取っていきます。とどのように活動を進めたらよいかを考えていきます。 ■第5回 【テーマ】教室中中間発表会 【目的】チームでまとめた内容を発表するとともに、他チームの状況を知り、自分たちに還元できる機会とする。 【到達目標】他者に伝わりやすく発表するとともに、他チームの発表からの気づきを得られるようになる。 【準備学習】 【特記事項】同じ教室内で活動している他チームの発表を聞き、討論を行います。自分たちが担当していないテーマの発表を聞くことにより、多様な活動について情報共有できる機会とします。 ■第6回 【テーマ】発表プロダクトの修正 【目的】よりよい提案や発表内容にするために、プロダクトの見直しを行う。 【到達目標】第5回の授業内報告会の内容を踏まえ、協創を意識しながら自分たちのチームの提案をよりよくするための情報収集・整理、プロダクト修正などができる。

	【準備学習】 【特記事項】他チームの中間発表から自分たちの発表に生かせそうなこと、あるいはフィードバックを受けた内容に基づいてプロダクトを修正します。 ■第7回 【テーマ】最終発表会 【目的】修正したプロダクトに基づいて最終発表を行い、チームの提案に対して関係者からのフィードバックを得る。 【到達目標】課題に対する自分たちの提案を、根拠をもってわかりやすく説明できる。自分たちの発表がチームメンバーの協創によってなし遂げられたものであることを実感できる。 【準備学習】 【特記事項】担当したテーマごとに教室が分かれ、自分たちが発表するとともに同じテーマを担当した他チームの発表を聞き、さまざまな相違を感じることができる機会とする。
教科書	指定しない
参考文献	担当する課題に関する書籍、webサイトの情報など 引用した書籍、webサイトなどは、発表に際してプロダクトに記載しておくこと
授業の方法	この講義は主として、 ・講義 ・演習 形式で行います。 授業方法として下記のアクティブラーニングの手法を実践します。 ・PBL ・ディスカッション・ディベート ・グループワーク ・プレゼンテーション ・その他(調査、プロダクト作成) 【フィードバック方法】なお、小テスト・課題等については、 ・複数回ごとに全体(グループ)にフィードバックを実施する(発表会において、フィードバックを行います)。 学生のオンラインなどを含めた学修をサポートするため、下記のLMSを使用します。 ・WebClass ・Teams ・その他(プレゼンテーションにおいてPCを利用します。) 基本対面で実施しますが、紀尾井町キャンパスの学生が参加する場合には、ハイフレックス型でオンライン併用で実施します。
成績評価方法	【評価方法】 ①グループディスカッションの観察記録、②授業ごとの提出課題、③発表プロダクト作成などチーム活動への貢献度について、成績評価ルーブリックを用いて評価し、総括的評価を行います。適宜各チームや個人に対してフィードバックすることで形成的評価を行います。また、全授業終了後にJUポートフォリオに掲載してある全学共通ルーブリックを用いて自己評価を行います。 【評価割合】 成績評価ルーブリックを用いた評価100% 【評価基準】 成績評価ルーブリックの全ての観点において(2)以上である場合に単位を認定します。成績評価に用いるルーブリックは、シラバスに添付されているファイルから確認してください。 S評価:全ての観点において(3)以上かつ(4)が2つ以上あるもの A評価:全ての観点において(3)以上である、または、 全ての観点において(3)以上かつ(4)が1つあるのもの B評価:いずれか3つの観点において(3)以上かつ1つの観点において(2)があるもの C評価:全ての観点において(2)以上であるが、S評価、A評価、B評価とにならないもの
オフィスアワー	
居室	
ホームページ	
その他特記事項	
添付ファイル	ルーブリック.pdf